

○ 訓練の設営等は前日から業者に委託。これで訓練になるのか

○ 住民の検査：全員の検査なし。検査結果は渡さない

ベータパネルは手・足等の体表面汚染の検査に特化。甲状腺被ばくは考慮せず

2023.12.5 避難計画を案ずる関西連絡会 監視行動の参加者一同

11月26日に京都府原子力防災訓練が行われました。福井県を震源とするM7の地震で高浜原発での事故を想定したものでした。福知山市の三段池公園でのスクリーニング・除染訓練が中心でしたが、参加した住民は福知山市・綾部市・舞鶴市・宮津市から、わずか250名程でした。ほとんどが屋内退避の訓練でした（約12,000名）。



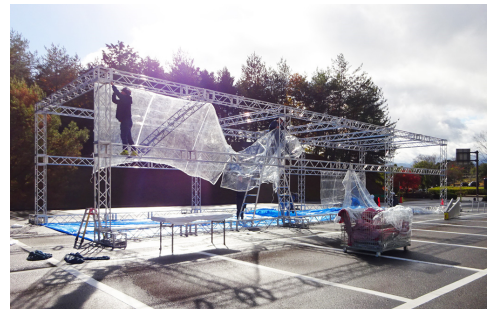
人の検査：ベータパネル

避難計画を案ずる関西連絡会は、京都府、福井県、大阪府から13名が三段池公園と宮津市の一時集合場所で訓練を視察しました。訓練の設営等は前日から業者が行っていました。以下で、訓練のいくつかの特徴を紹介します。

1. 前日から業者に委託して会場設営するのでは、実際の事故時にはとても対応できない

京都府は訓練会場の設営を入札で業者に委託し、前日から資機材類を運搬して当日8時までに設営完了するよう求めていました。業者に委託したり、前日から設営するのではまともな訓練になりません。実際の事故時には対応できません。前日の会場設営の様子を視察しました。

三段池公園の汚染検査会場用の資機材類は、前日10～14時の間に約18km離れた綾部市内の倉庫から取り出して、公園に運び込むことになっていました。11時半過ぎに公園に着くと、既にテントが設置され、資機材類を載せた台車が運び込まれていました。バスの検査除染会場は、流水除染のための「足場」の骨組みも設置済みで、



バスの流水除染用「足場」の設置作業

高圧洗浄水の飛散を防止する横幕を取り付けている最中でした。その後、地面に敷いたシートに落ちる洗浄水（汚染水）が「足場」の外側に流出しないようにするためのプール（デコンプール）を設置しました。これらの作業に16時前までかかりました。汚染水を回収するポンプやゲートモニタの設置までは行いませんでした。高価な機材は当日朝に設置するとのことでした。

住民の検査会場は、体育館（バスケットコートを2面取れる広さ）の床、机、100脚以上の椅子をビニールで養生する等の作業にかなり時間がかかり、18時前ようやく終了しました。

今回の汚染検査会場は、バスを流水除染したり、住民検査に屋内施設を使用する等、福井県主催の10月の訓練会場に比べればまともなものでした。しかし、自家用車や住民の流水除染設備は設置せず、更衣用テントは一つだけ等々、とても十分なものではありませんでした。それでも設営に朝から夕方まで時間がかかり、翌朝に持ち越す作業も残りました。

また、作業していた業者に聞くと、今回の訓練会場の設営は請け負ったが、実際の事故時の設営も請け負っているわけでないとのことでした。

2. バス 流水除染を実施したが、側面の横幕の隙間から汚染水が漏れる

バスの検査・除染の大きな特徴は、流水除染が行われたことでした。国は「マニュアル」で除染は拭き取りで行うとし、流水除染しようとしていません。京都府が流水除染を行おうとしていること自体は一定評価できます。しかし、そのやり方には大きな問題がありました。

会場にバスは 16 台来ましたが、指定箇所の検査（ゲートモニタ、フロントワイパー部測定）で基準値超えが想定され、除染されたのは 7 台のみでした。そのうち車体の前後左右の詳細な測定をしたのは最初の 1 台だけでした。しかし、この 1 台はふき取りのみですませました。一方、6 台には流水除染が行われました。詳細な検査は省略し、いきなり除染に入りました。

除染方法は、「足場」に設置されたシャワーによる屋根と側面の洗浄と、自衛隊員による高圧洗浄と主にタイヤ側面のブラッシングです。自衛隊員はシャワーの届かない、車体の前後やタイヤハウス、車体の下部も高圧洗浄していました。流水除染後は、ゲートモニタとフロントワイパー部の測定のみで、詳細な検査をせず通過させていきました。

最初の 1 台で詳細な検査を行った場合は 15 分以上かかっていましたが、流水除染で詳細な検査なしですますと 5 分で終了。府職員は「最初の 1 台は丁寧に汚染箇所を特定したが、時間がかかるので、後は流水除染にした」と述べていました。ふき取りのみですませないのはよいとしても、迅速性を理由に詳細な検査を省けば、除染がしっかりとされたか確認できません。

汚染水流出防止策にも問題がありました。側面の横幕を、複数のビニールシートを紐で結んで取り付ける形にしているため、飛び散った汚染水（洗浄水）が隙間から漏れていました。

また、大量の汚染水が生じ、5 台の除染で 1,000 L のドラム缶が満杯になりました。汚染水の責任をどこが持つか聞くと、府職員は「廃棄物は基本的に事業者が処理することになっているが、まだ詰められていない」と歯切れの悪い反応でした。国がふき取りを原則としているため、汚染水を関電が引き受けるかは決まっていなかったようでした。明確に決めておく必要があります。



「足場」に設置したシャワーによる除染

3. 自家用車 国のマニュアル通りに、簡易な検査と、紙製ウエスで拭きとるだけの除染



自家用車の参加は 43 台とのことでしたが、ほとんどが京都府の車両で、運転手一人だけで、同じ車両を何度も使いまわしていました。要援護者を乗せたタクシーが 1、2 台あり、この運転手だけが、白い上下のカップとマスクをしていました。

スクリーニングも除染も国のマニュアル通りでした。

①ゲートモニタでタイヤ側面の汚染を測定、②次に市町の職員が GM サーベイメータでワイパーを測定。基準値以下なら、これで終了。基準値を超えた場合は、ブルーシートが敷かれている場所へ移動し③自衛隊員が「確認検査」で汚染箇所を特定し、「キムタオル」という紙製ウエスで拭きとり（写真）、たまにブラシも使用していました。バスの流水除染とは異なり、部分的な拭き取りだけでした。訓練はわずか 70 分程で終了しました。

国のマニュアルでは、入口と出口を別にして、再汚染がないことを基本としています。しかし、この会場は入口と出口が同じです。これでは、除染した車両もまた汚染される可能性があります。

4. 人の検査：ベータパネルは体表面の検査に特化したもの。甲状腺被ばくは把握できず高い基準値、全員検査なし、通過証には測定結果なしの検査済スタンプのみ

車両が基準値(40,000cpm)以上の場合、まず代表者 1 人が「指定箇所検査」、代表者が基準値 (40000cpm) を越えると乗員全員の検査になります。指定箇所 (頭、顔、手の甲、手のひら、靴底) 検査は、ベータパネルという装置 (写真) を使って、一人 5 秒間で測定します。汚染された頭の接触などでバックグラウンド値に異常が生じた場合には補正が必要ということでした。



ベータパネルは、体表面の汚染検査に特化したものです。福島原発事故前の、甲状腺被ばくを確認するという検査の目的を否定する国のマニュアルに即したものです。基準値は、1 歳児甲状腺等価線量 300mSvに相当する 40,000cpm という高い設定値です。また、幼児はベータパネルでは測定できず、サーベイメータでの測定もありませんでした。これは大きな問題です。

確認検査は、2 人の要員が住民の前側と背側について、頭、体、両手足、靴底を 3～5 分かけてサーベイメータ (GM 管) で検査します。車いすの 5 名程は、指定箇所検査場所には寄らず介助者と一緒に確認検査をうけ、車いすの車輪も検査していました。

簡易除染は、頭部、手、背中等の汚染が想定され、背中以外はゴム手袋をして自分でウェットティッシュで 3 回ふき取り、1 回毎にゴミ箱にティッシュを捨てます。背中中の汚染の場合は、簡易除染要員が同様にふき取っていました。車いすの車輪も同様に汚染が検出された箇所だけふき取ります。その後サーベイメータで再検査し基準値以下を確認。手荷物も検査し、汚染がある場合は手荷物も同様の除染をし、基準以下にならない想定でビニール袋に入れて回収し、預かり書を持ち主に渡していました。

検査、除染を終えると通過証に「検査済証」のスタンプが押されて終了です。車両や代表者が基準値以下で検査なしの人の通過証は、集めて「検査済証」のスタンプを押し、返されます。

ベータパネルやサーベイメータの数値は記録されず、本人にも知らせません。40,000cpm 未満の人は汚染されていないことになってしまいます。これでは、住民の安全は守られないし、汚染の拡散も防げません。被ばくによる健康被害が起きた時、事故との因果関係が認められません。

案内表示が日本語だけであること、年齢層や視覚・聴覚障がい等多様な人への配慮不足などの課題が残る訓練でした。

5. 宮津市の一時集合場所：通過証記入、安定ヨウ素剤問診等でわずか 30 分の訓練



宮津市では、一時集合場所となっている栗田小学校体育館に、9 時に住民が集まってきました。参加者は推定 50～60 人程で、自治会長を中心に男性が多く、年配の人が多く見受けられました。

訓練内容は、体育館内で通過証を記入→安定ヨウ素剤の問診→「塩分チャージ」一粒で代替した安定ヨウ素剤の受け渡しでした。約 30 分の訓練で解散するという超簡単なものでした。住民に配布された封筒には、通過証、安定ヨウ素剤の説明文書、住民避難計画の説明書 (令和 4 年改定版)、アンケート、マスク、非常食のごはんが入っていました。

問診について住民に尋ねると「特に説明も何もなかった」、「アレルギーの質問だけの簡単なもの」とのこと。その後、福知山市三段池公園での訓練に参加する約 30 人の住民は、9:30 頃にバス 1 台に乗り、10 時に出発しました。これで住民の安全を守れるのかと強く感じました。